

令和2年度第2回総合教育会議議事録

日 時 令和3年3月24日（金）
午後4時15分から午後5時38分まで
場 所 ひかりプラザ2階 203・204号室

会議の出席者

（構成員）

市長	井 澤 邦 夫
教育委員会教育長	古 屋 真 宏
教育委員会教育長職務代理者	富 山 謙 一
教育委員会委員	大 木 桃 代
教育委員会委員	辻 亜 希 子

（説明員）

政策部長	藤 原 大
政策経営課長	沢 柳 和 彦
防災安全課長	古 谷 隆 之
人権平和課長	玉 井 理 加
教育部長	一 ノ 瀬 理
教育総務課長	日 高 久 善
学校指導課長	富 永 大 優
統括指導主事	大 島 伸 二
指導主事	野 村 宏 行
指導主事	渡 辺 大 輔
公民館課長	前 田 典 人
国分寺市立第一中学校校長	後 藤 正 彦

（事務局）

教育総務課職員（2人）

傍聴人 なし

1 開会

市長 それでは、始めさせていただきます。市長の井澤でございます。本日はよろしくお願いたします。コロナ禍において大変窮屈な生活をされる、また活動をされていると思いますが、そういう中であって御出席をいただきまして、ありがとうございます。

令和2年度、第2回の総合教育会議でございますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、会議は途中で休憩を10分程度入れさせていただいて、感染対策をとった上で進めてまいりたいと思っておりますので、進行についても御協力を賜ればと思っております。

本日の協議、調整事項でございますが、「SDGsの推進に向けた教育の在り方について」、市長部局と教育委員会との連携になります。御存じのように、SDGsは2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標として17のゴール、169のターゲットから構成されております。国分寺市では総合ビジョン、また、教育ビジョンにおいてSDGsの観点を含め策定をしております。本日は、SDGsの17の国際目標から、4番の質の高い教育をみんなに、5番のジェンダー平等を実現しよう、10番の人や国の不平等をなくそう、11番の住み続けられるまちづくりを。これを選択いたしまして、次第にありますとおり、1つ目のテーマは防災教育について、また2つ目のテーマはジェンダー平等について。この2つのテーマに沿って御協議をいただきたいと考えております。

それでは、早速でございますが、それぞれのテーマに関連する資料の説明に移りたいと思えます。まずは、テーマ1、防災教育について、防災安全課長及び第一中学校の後藤校長より、学校での防災教育について、現状を御説明いただきたいと思えます。よろしくお願いたします。

2 協議・調整事項

(1)「SDGsの推進に向けた教育の在り方について～市長部局と教育委員会との連携～」

① 防災教育について

防災安全課長 御説明をさせていただきます。防災安全課長の古谷と申します。どうぞよろしくお願いたします。

資料1-1を御覧いただけますでしょうか。まずは資料の1番目になりますが、防災安全課では、平時からの防災に対する備えや心構えを持っていただくために、学校と連携した取組を実施しております。令和2年度につきましては、第一、第二、第五中学校で実施させていただいております。対象はいずれも第1学年の1年生となっております。取組の内容につきましては、資料にて詳細は御覧いただければと思えますが、内容につきましては、各学校と調整させていただいた上で実施をさせていただいております。災害発生時に国分寺市がどのような災害活動を実施するのか。学校施設が災害時にはどのような役割を持っているのか。また、各学校に設置している防災備蓄倉庫、この中身を御紹介させていただいたり、実際に段ボールベッドを組み立てて使用してみたり、備蓄食料の試食をしていただいたりすることで、災害が発生した場合に避難所がどんな場所になるのか、寝る時はどのように寝るのか、簡易トイレはこのように用を足すのだなど、イメージを持っていただくことで、災害のイメージを共有させていただいております。

なお、今回、二中で実施させていただいた結果、お手紙をいただきましたので、幾つか御紹介させていただきます。国分寺市のホームページや「ぶんぶんチャンネル」などで、

コロナ禍の避難所がどうなるのかというのは知識としては知っていましたが、とても興味深いお話を直接聴けてためになった。また、アレルギー対応の備蓄食料があることを知らなかったが、今回試食をすることで備蓄があるということを知った。避難所に避難者全員が入れるわけではないので、しっかりと自宅での備えをしていこうと思ったなどの感想をいただいております。

次に、2番目は、資料の裏面を御覧ください。地域との連携になります。第二中学校では、本多連合町会、東元町一丁目自治会、本町・南町連合会、元町振興会などの自主防災組織による「地域の安全・安心を考える会」と連携した上で毎年様々なテーマに基づいた取組を実施していただいております。こちらは平成18年から実施しているという歴史がございます。この間におきましては、平成30年度に独自に防災冊子を作成するなど積極的に防災に携わっていただいております。こちらが実際の冊子になるのですが、こういったものをつくって配布していただいております。この冊子の中で「二中学生ができること」ということで、二中の生徒さんに考えていただいた「私たちは何ができるのだろうか」ということもこの本に記載をしていただいております。救助の手助けや、重いものを運んだりとか、また、避難所で退屈している小さな子どもの相手をしたりとか、そういったことができるのではないかとこのことを皆さんに考えていただいております。

なお、平成30年度は「運命を変える防災～学校での避難所運営について～」をテーマとして取り扱っていただいたことから、防災安全課では、避難所生活で発生する出来事や避難者の対応、どうすれば良いのかが模擬的に体験できる避難所運営ゲーム、避難所運営ゲームの頭文字をとってHUG、「ハグ」と一般的に呼ばれておりますが、このゲームを実際にやっていただいております。その後、令和元年度以降も同様の企画をしていただいたのですが、残念ながら新型コロナウイルスの関係で、中止となっております。

防災安全課といたしましては、中学生に対して災害発生時の活動に参加していただく取組が全国的に広がっていること、また、全ての公立高校に防災クラブを設置して、社会人になってから消防団員になるクラブOB生がいる他の自治体もあるそうです。国分寺市におきましても、消防団員の欠員が発生しておりますので、学校教育の場で地域防災の意識を高めることで、防災人材の育成、未来の消防団員の誕生にもつなげたいと考えております。簡単ですが説明は以上となります。

市長 ありがとうございます。また質疑については後でまとめて行います。

それでは、第一中学校の後藤先生、お願いいたします。

後藤第一中学校校長 第一中学校の後藤でございます。よろしく申し上げます。今、市長のところにお写真を差し上げたのですが、それはこの資料の写真が小さいので、私には見えないため、皆様も大きいほうがよいのかと思ったためです。

では、本校の防災教育について御説明させていただきます。まず、一番最初にあります「校長として感じる課題」ですが、やはり地域の体験活動が本校は非常に少ないです。自治会も解散してしまっていることもあり、なかなか地域で何かをなさいと言われても厳しい部分があります。なおかつ、中学生はとても忙しいので、地域に出ていきなさいと言っても、もう土日もスケジュールが詰まっているため、であれば、学校でできることを考えようというのが起源です。

実際に、2番に私の学校でしていることが書いてあります。この1番のα化米や段ボールベッドにつきましては、私は現在、国分寺の3校でお世話になっているのですが、五中の副校長のときから、それから四中の校長、本校、全てそこで自分がスタートを切っ

で行ってきたものです。ただ、2年生の避難所運営（HUG）ゲームにつきましては、後に記載されている本校が使っているものなのですが、学校指導課の特色ある学校づくり予算ということでいただいて、このセットを、30数セット、40セット弱ですが、つくっていただいて、それを活用させていただいています。この中身につきましては、通常の避難所運営ゲームではなく、国分寺一中バージョンに全部、私が作り変えました。地域名も、西武線が止まったらというように変えてあります。静岡県の防災センターに許諾申請をとり、その上でオリジナルのものをつくっております。その様子が、今、回していただいている写真のとおりです。

3年間かけて防災について、それから自分を守ること、人を助けることについての意識とスキルを高めるため、この様な3年間のプログラムを組んでおります。

SDGsに関わることで申し上げますと、もう1つ資料の、前年度、それから今年度の持続可能な目標、ESDの推進校というのをさせていただいています。その中の柱が幾つかあるのですが、授業のこと、それからSDGsの達成に向けたプログラムのこと、小中連携。一番大事にしたいと考えております、生徒が身近な問題の意識化、行動化をすることを考えています。

小中連携について、資料にも載っていますが、三小、五小、九小と本校で、このHUGを使って教員の研修を行っています。それから、本年度については、地域の方をお招きすることができませんでしたので、学年の教員と生徒で、2年生でHUGを行いました。このSDGsのマークが資料についていますが、質の高い教育という4番につきましては、単なる知識だけではなく、正解のない問いに対する答えを協働的に導き出していくことが重要だということで、このマークがついています。それから、住み続けられる持続可能な都市については、防災という意味でこのマークがついています。

今後に関しましても、HUGだけではなくて、まちづくりという部分については、既に教育長を通してお願いしておりますが、ぜひ市長のお力もお借りしながら進めていきたいと思っております。

やはり地域とつながる仕掛けという部分が重要なポイントであると思いはじめたのですが、防災に関しては地域の方の意識がとても高いので、ほかのことで学校とつながることは難しい場合でも、このことに関しては成功していると思っております。以上です。

市長 どうもありがとうございました。防災安全課長から学校出前授業、また、後藤校長先生からは中学校におけるHUGの取組を含めて、子どもたちとの訓練をやっていただきました。また地域の方も、今回、コロナ禍で難しかったということでありますが、勉強させていただいて、実際に簡易ベッドを使ったり、災害トイレを使ってみたりすると、実際に、どっちにどうしたらいいのかというのが分かると思います。中学生は本当に地域の力、宝です。災害のときには間違いなく地域にいてくれるのは中学生ですので、そんなときに、本当に普段の練習・訓練が生きると思っております。

それでは、皆様方から、今の説明を含めて御質問、また御意見を承りたいと思っております。いかがでしょうか。

富山教育長職務代理者 質問で、先ほど後藤校長先生から、HUGのことのお話がありましたが、これは本当に解答がないと言いましょか、何が正解かわからない、避難所運営の場合です。一旦誰かが経験したとしても、同じようなことは起こらないわけですから、常に新しい課題がそこにあって、何が正しいかわからない。それを協働しながらより良い答えを出していくというゲームです。もう少し具体的に説明をしていただけますか。その

写真で、体育館で、見取り図があって、こういう人がいたらこうするということだと思うのですが、例えばの話でしていただけると臨場感があると思います。

後藤第一中学校校長 こちらでよろしいですか。

市長 結構でございます。

後藤第一中学校校長 例えば、カードが250枚あります。その中にいろいろな条件が、例えば、126番、世帯番号26、西恋ヶ窪四丁目のアワジさん、男性40歳、被害なし。母、この人が世帯主、妻、長女の家族。近くの九小が混んでいるのでこちらに避難してきた。車で来たので、その中で生活をしたいという希望がある。ただ、本校は車で校庭への避難は基本的に御遠慮願っておりましたので、では、この人に対してどう対応するかというのを子どもたちが話し合います。

それから、例えば高齢者が来た場合、体育館のどこのスペースに入っていただくのが良いか。一度入ったが、やはり動いてもらわなければいけないケースもあるなど、課題が多く出ています。それに対し、子どもたちは、寒いところは高齢者は大変だからトイレに近いほうが良いなど、彼らなりの根拠をもって話し合いをしています。

富山教育長職務代理者 ありがとうございます。臨場感があります。通常の場合、マニュアルがあり、マニュアルになかったらねてしまってというのが起こりがちです。そうではなく、答えのないところで、どうやってより良いものを話し合いながらつくり上げていくかという訓練です。そのためもう1例、お願いします。

後藤第一中学校校長 1例、これは情報カードですが、東恋ヶ窪四丁目の民生委員です。安否確認に来ました。ひとり暮らしの高齢者の、名前がセイシンさんとかゲンサイさんたちは来ていますかということです。子どもたちは、そこにいる人がどういう人たちがいて、どこにいるのかというのをすぐ答えられなければいけない。そのようなミッションも入っています。

富山教育長職務代理者 ありがとうございます。本当にこのHUGのゲームというのは、想定しないような問題がそこで出てきて、それも、その被災を受けた方の立場に立って、自分たちはどうしたらいいかというのを胸を突き合わせて考えて、その答えを出していく。それは本当に正解かわからないが、それをしていくという思考力、判断力、表現力という、より良く問題を解決していくという、これは本当に素晴らしいゲームであり、力がついていく感じがします。

市長 防災安全課長、中学校における職員と、それから、その他の方々との連携の仕方はどのようになりますか。まず職員に初動要員がいらっしゃいます。その他ではどのようになっていますか。

防災安全課長 地震が発生した場合には、学校施設は避難所となりますので、あらかじめその学校に指定された初動要員、職員が各学校に5人配置されております。震度5弱以上の地震が発生した場合には、その初動要員は自動的に各学校へ参集して、避難所を開設する形になります。そこから避難所の運営が始まっていきますが、この避難所の運営につきましては、最初は初動要員が中心になって運営していき、最終的にはその地域の方々と提携しながら、その避難所の運営方針を決めて進めていくこととなります。

市長 その地域の方々と中学生が一緒になって行うということによろしいですか。

防災安全課長 今の地域防災計画の中でそこは、はっきりうたわれてはいないのですが、避難所を運営していく中で、中学生の力も借りて行うことができればと考えています。

市長 ほかにいかがでしょうか。それでは、大木委員。

大木委員 非常に素晴らしい取組を、部局、それから中学校もされていらっしゃるって伺い、感心し、感動いたしました。こういった災害のような危機的な状況が生じて、そのときに初めて、個人、あるいは集団の本当の姿があらわれると思っております。日ごろある程度取り繕っていても、いざ心身ともに余裕がなくなったときに、その人がどのような行動、言動をとることができるかということが、まさにその人の人間性があらわれるものだと考えております。

先ほど防災安全課長が、平時からの心構えや、災害時のイメージ共有ということをおっしゃっていましたが、災害が生じて初めてどうするかではなく、事前にイメージを持って活動していただき、中学校との連携といった視点がとても重要だと思えました。

一中の後藤校長先生からお話ございましたように、正解のない解答ですよ。正解のない解答を導き出すということは、つまり数学のように、この計算をしたらこの答えではなく、まさにその考えるプロセスを養成することがこのHUGのゲームではなされると思います。このゲームにおいて、正解のない解答、その状況、状況に応じて自分たちがどのように対応していけばいいのかという能力です。その力を育むということは、この先の生きていく力を育むことにもつながっていくのだらうと思えました。この一中の、防災教育について、HUG実施の背景にもありますように、最初は地域とつながることですが、昼間地域にいる中学生に対する高齢者からの期待の声は、私は、すごくHUGの効果は大きいと思います。中学生は、自尊心、自己肯定感の向上に寄与してくる時期です。そういうときに、親や先生などの大人、あるいは友達や身近な人だけでなく、あまり特に日ごろ親しいわけではない、地域の方から「頼りにしているよ」とお声掛けをいただけることは、自分たちが役に立つ存在だと実感できる1つの良い材料になると思えました。先ほど拝見したお写真でも、グループの中に地域の方が入ってくださっています。その地域の御高齢の方からもいろいろお教えいただくでしょう。また中学生がいろいろ考え、みんなでディスカッションし、こういうふうにしたら、先ほどあったように、御高齢の方は寒くないところのほうがいいのではないかと、トイレに近いほうがいいのではないかとというような、温かい気持ちを子どもたちが持っているということを地域の方も実感していただけるというのは、お互い本当に良い循環になるだらうなど。地域の方からお声掛けは、子どもたちの自己肯定感を高めることにもつながります。とても良い取組だと思えました。

この拝見した資料は、一中、二中、五中だけなのですか。

防災安全課長 今回、3校にさせていただいたのは、この3校から御要望をいただいたということで、3校と連携して行いました。

大木委員 とても素晴らしい取組なので、ぜひほかの中学校でも行っていただきたいと思えました。

もう一点、良いと思った点は、自然災害の現場では社会的弱者の方がハンディを負うことがとても多いのですが、先ほどアレルギー対応の食事も用意してあると伺いまして、私が不勉強だったのですが、細かいことも1つ1つしっかりと御対応いただいているということで、アレルギーをお持ちの生徒の方、あるいは保護者の方なども安心されると思います。対応ができていけるのだと知ることが、いざこのような状態、被災されたときに、安心感につながると思います。ぜひまた一層アピールをしていただければと思えました。以上です。

市長 ありがとうございます。後藤先生、生徒からはどんな感想が出ているのでしょうか。

後藤第一中学校校長 終わった後に、よそのグループも見させるのですが、自分たちと全く違うのです。1つとして同じところはないです。それを見て、HUGの効果、考え方の多様性、自分たちの考えているものが全てではなく、もっとこっちのほうが良かったなと素直に思うというような意見が多くありました。また、今年ではなく、地域の方に来ていただいたときには、地域の方になるべく指示をだすのではなく、上手にヒントを、「これはどうなっているの」と質問してくださいというお願いをした上で行うので、逆に地域の方が中学生の様子を見てとても驚かれて。こんなところまで考えられるのかと。それは私にとってはとてもうれしいことなのですが、そのような御感想をいただいています。

市長 そうですか。ありがとうございます。ぜひこれは、逆に防災では、それに応えられるような設備や準備していかなければいけないなということを実感します。辻委員、どうですか。

辻委員 先ほど後藤先生から、防災を通じて地域とつながるという視点が今後大事になるというお話を伺いまして、これはまさにこれから必要で、非常に有意義な視点だなと思いました。今、お祭りや自治会の行事、そういったものが人手が足りなくなり、縮小傾向ということを報道などで見ますが、災害は誰にでも平等に降りかかってくるものなのです。地域の出番がその時にあると思います。やはり自助努力だけでは何ともならないものが災害時の対応だと思いますので、地域と中学校がつながるのは非常に重要なことだと本日改めて認識いたしました。

市長から、中学生は地域の宝だという言葉があつて、私は本当に知識不足で、中学生がそこまでできるのだということをはなかなか理解していなかったもので、今後はそういう目で見ていきたいと思ひます。

このHUGは、ゲームという名前がついていますが、ただ単に面白い、面白がつてするようなゲームではなく、非常に素晴らしい教材だと思ひました。ゲームという名前ですから、子どもたちは取っつきやすいと思ひます。実際に体験している分、見れば非常に奥が深い。もちろん教科書で学ぶことも大事ですが、それとはまた違つたことを非常に貴重な体験として学べる場で、こういうことを体験できる国分寺の子どもたちはありがたいことだと思ひました。非常に勉強になりました。ありがとうございます。

市長 ありがとうございます。学校教育、地域教育というのでしょうか。本当に幅広い、高いものがあるという感じがいたしますが、1つの例はありますか。

富山教育長職務代理者 先ほど説明の中で、防災安全課の方が学校に来て、国分寺市の防災についての課題や解決策のお話を学校でしていただけることは、子どもたちにとって非常に有意義だと思ひます。学校の先生が教材として、「国分寺市はこうだよ」とお話をするよりも、実際に国分寺を守ろうとして、そしてどこに課題があつて、だからこういうことをしているという、先ほどのアレルギーの1つの例などです。あるいは、「避難所に全員入れない」ということも、実際にその課題を解決して、その前線になっている人が来て、実はこうなのだというお話をしていただけるというのは、子どもからすると、身に染みてわかるのだと思ひます。そうすると、今度は、では、僕たちは、あるいは僕の家ではということに子どもの課題視につながっていくと思ひます。だから、こういう地道なことを重ねていくこと。確かな、地道なことを重ねていくことが、防災・減災につながっていく子どもたちの心構え、身構えをつくっていくのかなと思ひます。これも1つ、今日良いなと思ひました。

市長 ありがとうございます。

教育長 教育委員会では第2次の教育ビジョンの中で、持続可能な社会のつくり手となる子どもたちを育てていく教育を推進していこうと考えて、今年度からスタートしたところでございます。その一環として、一中にはSDGsに関わる研究を昨年度から2年間にかけて研究を行っていただきました。その持続可能な社会のつくり手として資質能力を育てる点では、この防災教育はすごく大切な部分であり、入りやすいと思います。非常に身近な課題を把握しやすく、それに対して自分たちがどう考え、動いていけばよいのか。まさしく一中が目指している主体性を育むという点では非常に効果的であります。また学校だけで完結しないで、今、お話があったように、地域との関わり、また行政との関わりの中で課題解決、目標に向かった取組が展開できる。この教育をより一層充実させていきたいと思います。大木委員がおっしゃったように、全校にぜひ展開したいと思いますので、古谷課長には、大変お忙しい中ですが、御準備をお願いしたいと思います。

また、そのことによって地域コミュニティも本当に強化されていくと思います。第二中学校の生徒会と、先ほど御紹介いただいた安全・安心を考える会との連携なども、実は発表の中で冊子をつくったのだが、学校はコピーさせてくれないと。そんな話の中で、では地域がやってあげようということで、印刷が、たしか冊子になったような気がします。それをまた地域に配るという取組に発展をしたというように記憶しております。きっと一中は、来年は市長が政策提案を目指しているのです、政策部長にもぜひ御配慮いただいて、様々な政策提案があると思いますが、それをときにはバツサリ切っていただいて、あるいは受け入れていただいて、それが実現できれば、子どもたちが将来にわたって活躍していただける、そんな人材になっていくのかなと期待したいと思います。SDGsという視点の中での防災安全課とも連携して、防災教育をより一層充実できたらと思っています。どうもありがとうございます。

市長 市長部局としても真摯に受け止めて、できる限りのことはやっていきたいと思っています。今、このコロナ禍で、自然災害が、特に震災が起きたときにどういった避難所の状況になるのか。そんなことも想定しながら昨年の防災訓練を行いました。市民の方もいろいろな環境にありますので、御自分の、御自身の健康状態も様々です。障害の有る方、高齢者の方、またペットを連れてこられる方もいらっしゃいます。お子さんを抱えた方、妊婦の方もおられるということで、そういう方々にどのように寄り添っていくのか。特にこういう災害時のときにどうするのかというのが、本当にこれは市全体の大きな課題だと思っています。命と健康を守るということは、我々の大きな役割であります。そのため、こういうことを通じて中学生の皆さんから知恵をいただいて、市の中で生かしていければなど私は思いますが、政策部長、いかがですか。

政策部長 国分寺の場合は、昭和50年代から市民防災という観点で、地域に根ざした防災のまちづくりを手がけています。これは全国的にも表彰されている事例もあるぐらいで、市内の各所に防災推進地区という形で、地域における防災活動というのが非常に活発です。これは単純に消防活動ではなくて、本当に地震のときにコミュニティというような力で身の回りを守っていく形の活動です。それが今日改めて御報告を拝聴して思い起こしました。今まではそういう意識の高い、どちらかというと高齢の方々が中心な形で防災のまちづくりが進んできましたが、こういう形で、中学校、中学生も入ってきて、非常に裾野が広がってきているのだと思いました。

これからそういう形でますます防災のまちづくりが強化される、非常にいい形に展開していくのかなと思いました。これを大事にしながら、さらにいろいろな部分で、そもそ

ものところで国分寺市の総合ビジョンでも、まちづくりの基本理念の中に、ともに進める、ともに高める、それからともにつなげるということを理念として3つ掲げております。それはまさに今のような形の流れが繋がっていくものだと思います。このことを通じて、今のSDGsという話につながってくるのですが、教育ビジョンで掲げていただいた持続可能な社会。これも国分寺の場合は、防災を切り口にしながら、さらに発展が望めると思い、お伺いしました。ありがとうございました。

市長 どうもありがとうございました。まだまだ御意見があると思うのですが、いかがでしょうか。後藤校長先生、まだ少ししゃべり足りないことはありますか。よろしいですか。せっかくお見えになって、実際に生徒さんからいろいろな御意見も聞いていると思いますので、ぜひ御提案いただけることがあれば、私どもに御提案いただいて、中学生の軟らかな頭で発想されたものを生かしていきたいと思っています。

それでは、この議題についてはよろしいでしょうか。

それでは、ここで一旦休憩をとらせていただきます。

(休憩)

市長 それでは、再開いたしたいと思います。

② ジェンダー、平等（差別）について

市長 続きまして、テーマの2つ目、「ジェンダー、平等（差別）について」、人権平和課長、統括指導主事、また、公民館課長にもお願いしたいと思います。では、現状をまず人権平和課長から説明をしていただきます。

人権平和課長 人権平和課の玉井と申します。よろしくお願いたします。まず、資料ですが、A4、1枚とチラシ3つ御用意いたしております。取組を少し御紹介させていただきたいと思います。

最初に、この資料の2-1にございますように、現在のジェンダー、平等への取組、世界と国分寺市の取組を拾っておりますが、既に御存知の部分であると思いますが、世界的にもSDGsの中であらゆる人々が活躍できる社会の実現の中に、ジェンダー平等の部分、人権を明示しています。女性を含め、次世代のエンパワーメントを行っていく大きな目標を掲げております。人権平和課についても、ここの目標に向かって日々取組をしています。

国が掲げているのが男女共同参画社会基本法で、これももう既に御存知と思いますが、ジェンダーです。性別によらない役割の在り方、自ら選択できる社会の実現を基本法で示しております。ここで完成しました第5次男女共同参画基本計画の中にも、改めて記載をされています。この後、後段でも御紹介する性的指向や自認に関する多様性についても、今回、国は改めて示しています。

この男女共同参画基本計画を受け、国分寺市も男女平等推進行動計画をつくっております。その大もとは条例です。この男女平等推進条例でうたわれています、ここも性別に関わりなく活躍できる社会の実現を掲げて行っています。こういったことが市民の方にとってどういったお伝えできるかを考えながら、人権平和課として取り組んでいるのですが、この2つ目のところにあります男女平等推進センターの取組で少し簡単に御紹介をしております。

人権平和課は、この男女平等推進センターも併設しております、女性の問題に対する相談、普及啓発を行っているのですが、特に今回は市民講座に特化した啓発を御紹介しております。最初の表にありますのが、これはワーク・ライフ・バランス、ジェンダーに

よる役割分担意識の解消で、親子で参加できるもの、お父さんが参加できるようなイベントなども企画をして、好評をいただいています。

裏面が、健康支援、リプロダクティブ・ヘルス・ライツで、女性の健康問題、子どもたちの成長に従って体の発達について理解を促すということで今年も行ったのですが、親子で参加でき、今年は女の子編ということで行っております。これも大変好評でした。お母さん方からは、今度は男の子編もやってほしいという声もいただいております。

3つ目のテーマとしてあるのが、人権、デートDV、互いの性の理解で、これは特に若年層への広報の取組を行っております。今年にはコロナ禍でできなかったのですが、児童館に伺って講座などをお子さんたちに向けて行ったり、児童館の職員に向けての勉強会を行ったりしています。子どもたちの様子をキャッチしてつないでいただくというようなことも行っております。

多様性や全ての方々を含める社会、インクルージョンについて取り組んでいる中で、3番目に、今後の市が掲げる取組と予定を御紹介します。大きな今年度の取組としましては、国分寺市がパートナーシップ制度の導入をしたのが大きいと思っております。チラシをつけておりますが、11月15日に導入いたしまして、既に市民の方からお問合せをいただいております。都内でも広がり始めている制度で、多摩地域では3番目だったのですが、かなり早い時期に取り組めたことは、市民に向けての発信としても大きかったと思っております。

今年度は職員向けの講座と市民向けの講座を行ったのですが、市民向けは緊急事態宣言中だったため、オンラインに切り替えております。今回、資料でもつけておりますが、現在もオンラインで配信をしております。これは公立小学校の先生に講師を行っていただき、この方自身も御自身が当事者だとおっしゃって、先日、東京都でも講座を開かれております。市民の方110人の申込みをいただいて、現在視聴していただくことも行っております。

ダイバーシティの推進に向けて、多様性を受け入れる社会の実現に取り組んできましたが、この2つ目のコマにあります令和3年度の施政方針の中で、全ての人を大切に、差別をなくすための宣言というものを現在、御提案をしています。やはり今年度1年通じて、コロナ禍による社会変容がございまして、女性に限らず、外国人に対して、例えば差別、SNS等による誹謗中傷など、様々な個別の御相談がありましたが、そのことも併せて充実をしていき、市として差別を許さない、無くすための宣言というものを、今後、市民の方にお示ししていくことを予定しております。

雑駁ですが、御紹介になります。以上です。

市長 ありがとうございます。後でまた質問等受け付けたいと思います。学校指導課、よろしく願いいたします。

学校指導課統括指導主事 学校指導課統括指導主事、大島です。よろしく願いいたします。私からは、資料2-2をもとに、ジェンダー、平等に関する市立学校の取組について御説明をさせていただきます。

1文目にあります、性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童・生徒へのきめ細やかな対応について後ろに出てくる文部科学省のリーフレットの題名となっております。こちら平成28年度の4月に各学校に配布をしているもので、こちらからもう既に学校では取組を始めています。併せて、東京都教育委員会の人権教育プログラム、毎年、全教員に配布を行い、この中にも同様の内容が人権課題として示されております。こちらの対応の徹底を各校へ周知しています。

また、国分寺市人権教育推進委員会を学校指導課で主催をしております、その中での人権課題である性同一性障害や性的指向に焦点を当てた研究授業を実施しながら、その成果をリーフレットにまとめて配布をするということを行い、理解啓発に努めてきた経緯がございます。そちらは資料に抜粋を載せておりますが、こちらのような形で表紙があり、中には、授業の内容、実際に行った授業の内容、それから、その他に関わる各校の情報をリーフレットにして配布をしております。

加えて、新しい学習指導要領でも、総則の中に多様性を重視するという文言が示されております。特別の教科道徳、家庭科、保健体育など、様々な教科等で学習していくことになっていきます。現に、令和3年度から中学校で使用する保健体育の教科書ですが、資料の下段にあるようなLGBTに関する説明の文章が載っていたり、それから当事者のメッセージなども掲載されています。

このようなものを使いながら今後も指導を続けてまいります。今後は市として進めているパートナーシップ制度についても、発達の段階に応じて正しい理解が図られるように、学校でできることを検討していきたいと考えています。私からは以上です。

市長 ありがとうございます。それでは、次、公民館課長、お願いします。

公民館課長 公民館課長です。よろしく申し上げます。それでは、公民館からは「くぬぎカレッジ」に関する報告をいたします。資料ナンバー2-3を御覧ください。SDGs、4と10の開発目標に関わる事業となります。

令和2年度、文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」委託事業につきまして、昨年2月に文部科学省からの募集要領の通知を受けまして、国分寺市教育委員会として企画提案書を提出しています。資料のとおり全国19県中3位で採択されており、基礎自治体といたしましては、国分寺市のみとなっています。選定委員会からは、資料の右枠部分を御覧ください、自治体の社会教育の可能性を広げるものと思われる。②としまして、理念や連携協議会の構成がしっかりとしており共生の地域づくりも意識されていて申し分ない。持続可能な生涯学習プログラムの開発が期待される。そのような評価をいただきました。

2番目の事業の詳細ですけれども、昨年7月15日号の公民館だより「けやきの樹」に掲載した内容となります。くぬぎカレッジの狙いといたしましては、障害の有無にかかわらず、市民が地域で支え合っていく持続可能な学びの場をつくることを目的として、学習、表現活動、造形、交流の4本を柱として、また、コロナ禍において孤立しがちな障害者のつながる形と交流するツールといたしまして、電話、メール、それからジャーナルを取り入れた活動を入れて募集をかけています。障害のある方にもわかりやすいようにアイコンを用いて広報をいたしました。

裏面を御覧ください。くぬぎカレッジの運営に関する会議体となります。各種会議の③スタッフ会議以外は、このくぬぎカレッジを運営するに当たり新たに設置した会議体となります。まず、連携協議会については、既存のくぬぎ教室を実施している3館からの代表に加えて、市長部局から障害福祉課、地域共生推進課からも職員に参加してもらい、教育と福祉分野の連携を図ることを大切にしてきました。指導者コーディネーター会議については、生涯学習を専門にされている大学教員に1年を通じて指導、助言をいただいて実施してきました。

4番目の実施後の成果となります。新型コロナウイルス感染症対策のため、8月からの実施となりました。令和3年1月28日現在、参加者、申込者が21人。スタッフ登録者が

19人。残念ながら2月に予定していた成果報告会、それから支援者研修会は中止となりましたが、それ以外は感染症対策を徹底して実施できました。参加者とボランティアを含め、延べ200人の参加者数は想定どおりの数字となっています。想定していなかった成果といましては、以前関わってくれていたスタッフがこの機に復活をしてくれたり、講師が講師を紹介したりして、1年を通して人と人がつながり、人の輪が広がり、回を重ねるごとに活気のある事業が展開できたと感じています。事業が東京新聞に掲載されたり、③のところに記載してありますが、文部科学省中央審議会の事例集、施策集にも掲載されたりするなど、注目の高い事業となりました。

5番目の今後の課題です。今後も新型コロナウイルス感染症対策のための部屋の定員活動に制限があり、その中でのボランティアの関わり方や飛沫防止対策は課題となります。また今年度、コロナ対策の関係で、最後に企画していた講座、成果報告会、支援者研修は中止となっています。今後はオンラインを活用した会議とか、講座、研修会の運営が求められることが課題となっています。

最後になりますが、今年度、障害の有無にかかわらず、市民が地域で支え合っていく持続可能な学びの場をつくることを目的として、福祉部分野と連携をとり、実践研究に取り組みました。今回の実践研究の成果を今後、国分寺市の事業に反映すること。それから、実践モデルとして全国にも発信していくことが最大の課題となっています。今後も様々な場面を通じて広報活動を実施していきたいと考えています。

以上、報告を終わります。

市長 ありがとうございます。今、ジェンダー平等の取組や差別を無くすための宣言、また多様な性に関する教育、障害の有無にかかわらず誰もが学べるような場の提供と、テーマは非常に多岐にわたる内容でございます。説明もたくさんいただきました。

今、最後にあったくぬぎ教室は、今年でちょうど45年目を迎えるのですよね。そういう意味で非常に多くの方に関わっていただいて、この活動を続けていただいているということが国にも評価されている事業であります。委員の皆様からいろいろな御意見、また御質問があると思いますが、どうぞ。いかがでしょう。では、大木委員、お願いします。

大木委員 私は、このテーマである何時間も話すことができちゃうので、本当に必要なポイントだけお話をさせていただきたいと思います。

ちょうど2週間程度前でしょうか、私も公認心理師の研修会でLGBTについて学ぶ機会がございまして、改めて不勉強だった点も含めていろいろなことを学んだのですが、その中で、ある講師の弁護士の方の資料に、全国自治体パートナーシップ制度実施状況という一覧がありました。東京を見てもまだまだ少ないですし、全国を見てもまだまだ少ないという中で、この国分寺市の名前があったというところで、まず一市民として、心の中で「やった」といいますか、ガッツポーズが出たぐらいで、この国分寺市が挙げられたことを大変誇りに思いました。私は、一市民として、こちらを市からの御連絡で拝見したときに、なんて素晴らしい市に私は暮らすことができているのだろうと、とても感動いたしました。

概念として多様性をうたうのは非常に簡単です。言葉だけで言うことはとても簡単ですが、ただ、抽象度が非常に高いということは、結局、人の解釈によって容易に、いかようにも変えてしまうことができると思います。しかし、このように制度として確立することは極めて重要で、国分寺市としてジェンダーの多様性を、ひいてはその個々人の人間の価値観とか生き方を尊重して大切にする市だと内外に宣言したものと私は解釈いたしました。

た。

先ほどの御説明の中でも、令和3年度の施政方針でも、「すべての人を大切にし、差別をなくすための宣言を行う予定」とあります。より一層、国分寺市としての姿勢を明確にさせていただけると期待をいたしております。

先ほど学校指導課の、特に教職員対象のお話です。研修なども含めましてお話を伺いましたが、教職員自身のジェンダーとかセクシャリティに対する考え方や意識は、実際にその当事者である子どもたちへの関わり方に影響を及ぼすと思います。知識として学ぶだけではなく、自らを省みる機会にしてほしいと思っております。もし少数派の方に対して何か、実は心の中で偏見を持っている、しかし、自分が教員という立場だからと行った対応は、本当に子どもたちのことを思って出てくる対応とは異なります。そのため、偏見を持っているかどうかは別として、あたかも自分はわかっているかのような、そういうわかったつもりになっている人が、一般論としてこういう人もいるから大丈夫だよと、あなたの性的指向を尊重しますということを行いがちです。実は、あなたではなく一般的にはこうですよという言い方になると、結局はそのお子さん、児童・生徒の心に寄り添っていないこととなります。児童・生徒にとっては、もし先生方にそういう話をしたならば、それは非常に大きな信頼を寄せていることだと思います。性的なことに関しては、なかなか自分の親も含めて言いたくない、ましてや先生には言いたくないと思っている子が大部分だと思いますが、その中で勇気を出して、自分が信頼できる大人として先生方にお話をしたというときには、ぜひ本当に心の底から、その子の将来の人生も含めて、その子の存在自体を受け止めてあげられるような、そういう研修をぜひ行っていただきたいと思っております。

最後、くぬぎカレッジも、文部科学省の委託事業として高い評価を受けた、19位中3位、基礎自治体としては国分寺市教育委員会のみとこちらに書いてあります。これはやはり国分寺市の、障害の有無にかかわらず、市民がお互いに支え合っていく、その姿勢を市として大切にしていることが評価されたと思ひ、非常にうれしく拝聴しました。ぜひこれを小中学校の教育にも何らかの形、まだ、私も具体的なイメージが湧いているわけではないのですが、何か形で関わることであればと思ひました。私は、いつもこういった話のときに言うのですが、そもそも障害があるから生きづらいのではなく、その障害に対する周りの人たちの無理解が生きづらくさせている。国分寺の子どもたちには、障害がある方に対して、特別な支援をするのではなく、当たり前の支援、お互いがお互いを支え合っていく、そういう気持ちを持つ子どもたちになってほしいとずっと申し上げています。このくぬぎカレッジに関しても、本当にみんなが一生学んでいきたいというときには、ではどんなふうにお互い支え合っていくのか、そういうようなことを勉強する機会になればいいなと思ひました。

全体を通して、ジェンダーや障害、様々な人権問題は、残念ながらまだ解消されていません。しかし、市、そして教育委員会が連携して、率先してそういう問題に取り組んで、市民1人ひとりの生き方を大切に尊重していく、そういう姿勢が重要で、かつ、その具体的な政策として示し続けていくということが重要だと思います。ぜひこれからも協力して取組を進めていただけたらなと思っております。以上です。

市長 ありがとうございます。それにお答えする方ございませんか。辻委員、いかがでしょうか。いろいろ伺いたい、皆さん。ありがとうございます。

辻委員 私もパートナーシップ制度は非常に素晴らしいと思ひます。御要望、市民から

のニーズもあってできた制度と伺いましたので、制度実現に向けて御尽力されて、実際に行動に移されて、先ほど大木委員もおっしゃっていましたが、先ほどの後藤先生の行動変容につながると思います。理念として掲げているだけでなく、制度化したことは非常に意義深いことだと思いました。

そのほかにも、学校での取組でも、性や、性の多様性に関することが取り上げられています。1つ気になった点としては、国分寺市はパートナーシップ制度もあり、性の多様性について触れる機会も多い、学ぶ機会も多いとなると、子どもたちにとっては、多様な性があるということは日常的になります。それは良いことだと思うのですが、逆にいわゆるアウトィングと言われる、他人の性に関する問題をその人の同意なく、みだりに誰かに話してはいけないということが子どもたちの間で起きないか心配されます。もちろんセットで教育の場面では取り上げられているとは思いますが、いま一度そういうことを、先進的な国分寺だからこそ、別に性の問題はオープンなのだとすることで、変な誤解が生じないようにしていただければよいと思います。本質は、性の問題がその人にとっての本質的な、人格に関わる問題であって、誰にとっても大事なことから、勝手に言ったり、それから性のことで傷つけたり、からかったりするのとは絶対に駄目なのだとすることを常に大前提として取り上げていただければよいと思いました。

それから、ジェンダーの、このSDGsの5番「全ての女性及び女児のエンパワーメントを行う」という目標が出ているので関連として伺いたいのですが、国分寺市では管理職に占める女性の割合は、今どのくらいになっているのでしょうか。

市長 女性管理職。では、人権平和課長、お願いします。

人権平和課長 今、管理職71人おりますが、そのうち13人で、約2割が女性管理職でございます。

辻委員 意思決定機関の中で3割女性がいると変わるとよく言われますが、世の中もっと少ないところも多いです。国会議員、衆議院では1割ですから、かなり国分寺は頑張っていると思います。今後は、こういう先進的な制度が実現できている国分寺市では、今後増えていくと思います。それは意志決定機関において多様性が重視される効果ももちろんありますし、他方で女児とありますが、未来を担う子どもたちに向かってのロールモデルにもなると思うので、ぜひともその実現は進めていただければと思います。国分寺市では意思決定機関に女性がたくさん活躍しているのだ、こういう市で私たちは暮らしているのだと、子どもたちだけでなく、全ての国分寺市の人に思ってもらえるといいなと思いました。

それから1つだけ、最後に、くぬぎカレッジについて、他市からの視察、留学生の見学があったということですが、ぜひ、例えば研究者にも取り上げていただいて、全国発信というお言葉が最後にありましたが、よりアピールしていただけると良いと思いました。以上です。

市長 何かコメントはありますか。公民館課長。

公民館課長 今回のくぬぎカレッジは、専門家の大学の識見者なども関わっていただいています。それから、先ほど、東京新聞にも掲載されましたが、このように、あらゆるツールを活用しながら広報活動をしていきたいと思っています。広報活動をしなくても、そのようなところから取材に行きたいということも伺っていますので、いい方向に広報できればと考えています。

市長 ありがとうございます。女性管理職については、常日ごろから私も力を入れてお

りまして、キャリアビジョン研修というのもやっております。女性が管理職に進んで手を挙げていただくような、そんな環境づくりをしています。

辻委員 女性の管理職を増やすためには、このプリントのテーマの2のところにもありますが、資料2-1の2です。やはりワーク・ライフ・バランスの問題は欠かせない視点だと思います。ぜひ併せて御検討いただければと思います。

市長 そうですね、分かりました。ほかにいかがでしょうか。

富山教育長職務代理者 特にジェンダー平等に関わって今回、中学校の教科書の中に内容が盛り込まれ、全ての子どもが関わって知識を持つことができる。そこがとても大事なと思います。それがないと間違った方向に行くという可能性を秘めるからだと思います。教科書で扱われると、教科書は、雑誌から見る情報よりも精度の高いものと一般の子どもが見ますので、教科書で扱われているところを学校では授業時数の確保の中で、保健体育の中の保健領域ですので、短縮されてしまうという可能性がないわけではありません。そこを教育課程の管理をしていくこと。全ての子どもが知識としてそれをきちっと持つということと、もう1つは、学校教育全体を通じて、知識があってもそういう差別、偏見、そういうところがないかということ人間はそうではないと思います。そのような意識や心情の部分での偏見を持ったり差別したりしてしまうということがいかに人権を阻害するか、次の社会に生きていく、グローバルな社会で活躍していくためには、絶対条件、その部分はもう人として欠落してはいけない部分ですので、学校教育の全体を通じたそういった意識、それから倫理、倫理観、あるいは道徳観、人間としての在り方のような部分も併せて育てていくカリキュラムをきちんと学校の中でつくって、管理をしていくことがとても大事なと感じました。

教育長 先日、私もオンラインでシゲ先生の御講演を聞かせていただきました。すごく勉強になりましたね。やはりシゲ先生も、正規の教員を長くされていたという中でいろいろな葛藤があり、いろいろな活動に取り組むために、また、講師としてのお立場の中というお話もありましたが、人としての心の揺れ動く姿や教師としての在り方も、本当に穏やかな言葉で語ってくださったということでもとても学ぶところがありました。

子どもたちへの教育については、今、富山教育長職務代理者がおっしゃったような、やはりカリキュラムとしての位置づけをしっかりと行っていかななくてはならないとともに、子どもたちを受け止める大人、教師、保護者、そして地域の方々も、社会全体でこういう点については学んでいかななくてはいけないのかなど、私は思っています。教員研修の充実ということもこれから図っていかなくてはなりません。また、今、公民館でもやっているP連との共催講座があるかと思っています。そういう中に、このLGBTQや多様性といった点のテーマで講座を設けて、みんなで学び合っていくことも必要かと思っています。社会全体で学んでいくことが必要だと思っています。また、くぬぎカレッジについては、来年度も引き続き研究を行っていきたいと思っておりますし、私が公民館に伝えているのは、支援する側、支援される側という立場ではなくて、共に学び合っていく、そういう市民でつくり上げていくのが「くぬぎカレッジ」なのだということを証明してほしいということを伝えています。そういった点では、本年度の事業の成果の中で、当事者の方の要望やニーズから生まれた企画が誕生したのは1つの大きな成果で、そういうものを多く積み重ねていき、生涯にわたって障害のある方もない方も学び合える教育をつくり上げていきたいと願っています。そういう点でSDGsに取り組んでいきたいと思っており、今後とも市長部局の皆様方の御支援をいただき、また、必要な連携は十分に行ってまいります。どうぞ

よろしくお願いたします。

市長 様々な御意見，ありがとうございます。パートナーシップ制度による平等社会の構築，多様な性に関する正しい知識を得ること，また，障害の有無に関わらない，地域で支え合う環境づくり，これを通してジェンダーや平等について教育委員会として貢献していく，誰もが住みやすい，そんなまちづくりを進めていかなければいけないと思っています。

今日の2つのテーマについて，本当に多くのお話をいただきました，御意見もいただきました。これを生かして，これから市政を進めてまいりたいと思っています。SDGsの推進に向けた教育の在り方は，市長部局と教育委員会との連携を行っておりますが，本日いただきましたいろいろな御意見をこれからまた生かして，今後の方向性について確認することができましたので，是非これをしっかりと受け止めてもらいたいと思っています。

SDGsの目標は，本日御意見をいただきました内容以外にもございます。今後も市長部局と教育委員会が連携を図りながら，子どもたち，市民に向けた質の高い教育を確保し，生涯学習の機会を促進してまいりますので，どうぞ皆様方の御協力を賜りたいと思っています。非常に短時間で，本当はもっともっと時間があれば良かったのですが，このテーマについては今後ともいろいろなところでまた触れる機会があると思いますので，よろしくお願したいと思います。

3 その他

市長 それでは，その2つのテーマについては終わりますが，その他何かございますか。

それでは，ないようでございますので，これで令和2年度第2回総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日は御苦労さまでした。ありがとうございます。